



テクニカル・メッセージ

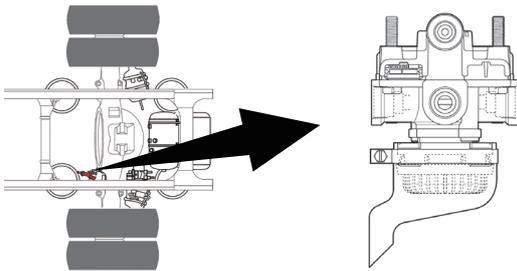
大型トラック・トラクタ パーキングブレーキ・リレーバルブの点検整備のお願い

気温が氷点下に下がる冬季に、パーキングブレーキ（スプリングブレーキ）・リレーバルブ内に溜まった水分が凍結すると、パーキングブレーキが正常に作動できなくなる場合があります。**パーキングブレーキ・リレーバルブおよびエアドライヤの点検整備が重要ですので、確実に点検整備を実施してください。**

■ 対象車両

大型トラック・トラクタ（プロフィア）

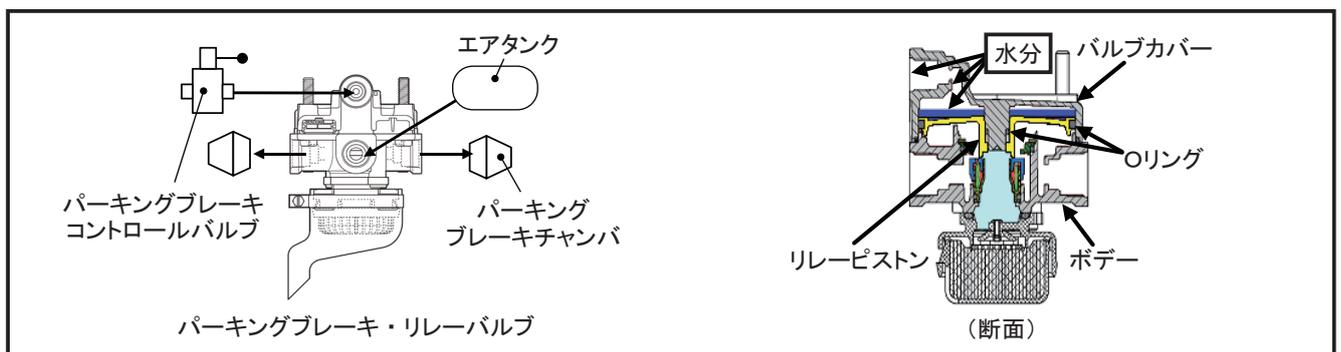
■ パーキングブレーキ・リレーバルブの搭載位置



車両によってバルブの形状が異なる場合があります

■ パーキングブレーキ・リレーバルブおよびエアドライヤを整備せずに使い続けると

エア系統に水分や油分が入り込み、パーキングブレーキ・リレーバルブ内で水分が凍り、パーキングブレーキが作動しなくなったり、解除できなくなったりする可能性があります。



<水分の汚れが付着したリレーバルブ（分解状態）>



■ 点検整備について

冬季でも安心してお使いいただくためにも、下記の点検・交換時期の整備を実施してください。

点検・交換時期	点検交換・整備項目
1年毎または60千 km [※] (※モデルにより異なります)	エアドライヤの乾燥剤・フィルタ・ゴム部品は全て交換してください
2年毎	パーキングブレーキ・リレーバルブのゴム部品を交換してください

パーキングブレーキ・リレーバルブの凍結を予防するために上記の点検・交換に加え以下作業の実施もお願いいたします。

1. バルブカバーをボデーから外し、リレーピストンを分解する。
2. エアブローで内部の水分を除去する。バルブカバー、ボデー、リレーピストン等を清掃する。
3. Oリングにシリコングリース（信越化学工業製 G40M 相当）を塗布し、再組立する。
4. パーキングブレーキ・リレーバルブに接続されたナイロンチューブ内の水分をエアブローして除去する。
5. パーキングブレーキを作動させてエア漏れがないことを確認する。

- ・ 各整備に関する詳細は整備解説書、取扱説明書、メンテナンスノートをご参照ください。
- ・ 整備解説書等の内容でご不明な点がございましたら最寄りの日野販売会社までお問い合わせください。

■ リレーバルブが凍結した時の対処方法について

リレーバルブのバルブカバー部を温めて解凍することで、一時的に正常に作動、解除ができる場合があります。その際、内部のゴム部品等の過熱に注意してください。また、その後は速やかに上述の整備をおこなってください。